

「道」

2月…

立春を過ぎたと言え雪国新潟の春はまだ遠い。

誰もまだ歩いていない新雪の田中の道をただひたすら歩きながら、自分の歩いてきた後をふと振り返ると、そこに、自分の残した足跡が遠くまで続いている…

誰もが皆、限られた人生を真剣に生きていけば、何らかの足跡が残る訳で、後に続く人達が、その道が続いて歩いてくれば、その一筋の足跡が、大きな「大道」となるかもしれない。

そういう事を考えながら、ただひたすら新雪を踏みしめながら歩き続ける…

「求道実践」……

そうした人生を私は生きてゆきたいと思う。



2010年 1月3日 伊勢神宮にて

今年は、徳真会グループ創業30年目の年となります。

1981年4月16日、新潟県旧新津市の街はずれの住宅地で小さな歯科医院を開業したのは、私が28才11ヵ月の時でした。

以来、29年の歳月が流れ、人も組織もそして時代も大きく変わり、まさに「生生流転」の感を強く感じる年齢に私もなっています。

創業半年くらい経った頃、組織の基本理念となる「診療理念」を明確にし、理念に基づいた組織創りを志し、今日までやってまいりました。

徳真会の歴史はまさに理念に基づいた時代先駆の歯科医療グループ創造の歴史でもありました。

振り返ってみれば歯科界という特殊な業界に、たまたま縁を得てはいり、地縁、血縁も何も無い新津市で開業したのも何かの縁であったと思います。

以来、新潟県内から、全国そして世界へと、組織輪は広がり、今日、アジア最大の組織となり、世界10ヵ国籍のスタッフが働く組織となっていますが、私の中では30年近くたって、まだ理想とする組織に育ちきってないと苛立ちにも似た反省が強く有るのも本音です。

創業10周年の頃から

十年偉大なり

二十年恐るべし

三十年歴史を創る

という言葉をよく引用する様になりました。

これは、理想の組織創り、人づくりに日夜挑戦してゆく日々を続けているにもかかわらず、遅々として進化しない現状との葛藤

の中で、自分自身を鼓舞する言葉でもありました。

しかし、三十年目を目前に控えた現在、組織には業種、地域、時代、そして人によって成長の早いものも有れば遅いものも有るという事理解も含め、

開墾植樹	30年	} <大志成就 60年>
大樹陽葉	15年	
大輪開花	10年	
結実豊穡	5年	

を「組織創造の道程」として考える様になりました。

個人的に親しくさせて頂いている柔道の山下泰裕さんが**正論とは難しいものです。**

**正論を言えば言うほど
相手を傷つけ、相手の反感を買い
正論が受け入れられない結果に終わりやすい。
何が正しいかを考える以上に、
正しいことが受け入れられるにはどうしたらいいのか。
どうしたら相手の心を動かせるかに意を用いなければ
ならない。**

と述べておられます。
今日までを正攻法の努力を継続してやり続けてきたという自負は私の中には有りますが、創業30年目を迎えるにあたり今後の組織創りのやり方において大変参考になる言葉であります。

組織創りは、人を育てると同時に自分を育てるそのプロセスである事を、30年の年月の中で私自身が学ばせて頂いております。

30年 開墾植樹

Reclamation
Afforestation
30 Years

徳真会グループ
理事長 松村 博史

創業30年目にあたり